

授業科目名	和文：表現と人間ⅡB－教育表現論－ 英文：Human Expressions IIB:Communication in Japanese				時間割	月 7-8	
科目コード	504-0144	必修・選択	選択	単位・時間数	1・8	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
阿部 昇	教科教育学		教文3-138 / 2618				
オフィスアワー 曜日及び時間：月曜日 16時10分～17時40分 場所：阿部研究室（教文3-138）							
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 ディベートの演習を通して、論理的思考力、批判的思考力、対話能力、説得力等を身につけていくことを目指す。							
2. 到達目標 (1) 質の高いディベートが展開できるようになる。 (2) 論理的思考力を身につけ高めていく。 (3) 批判的思考力を身につけ高めていく。 (4) 対話能力、説得力等を身につけ高めていく。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
本授業は、論理的思考力、批判的思考力、対話能力、説得力等を身につけていくことを目指している。そのため、ここで身につけた力が多くの授業の基礎的な能力として生きていく。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
ディベートの準備、実施、ジャッジ、記録、リフレクション等の実習を中心として授業を進めていく。							
第1回 ディベートの紹介（ビデオ視聴を含む） 第2回 マイクロ・ディベート：その1 第3回 マイクロ・ディベート：その2 第4回 ディベートのスキル、ジャッジの方法、フローシートの書き方等の学習 第5回 本格ディベートの準備：その1（リサーチ・スキルの学習を含む） 第6回 本格ディベートの準備：その2（プランシートの書き方の学習を含む） 第7回 本格ディベート：本番 第8回 ディベートのリフレクション及び授業全体のまとめ							
<b>授業に関連するキーワード</b>	論理的思考力	批判的思考力	対話能力				
説得力	立論	反駁					
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
授業での活動、レポートなどによる。出席状況を重視する。 以下の要件を満たした者に単位を認定する。 (1) 出席率が良好であること (2) ディベート演習に積極的に参加すること (3) 指定されたレポートを提出すること							
<b>教科書・参考書等</b>							
授業の中で紹介する。							

授業科目名	和文：教育学ⅠB－現代社会と教育－ 英文：Pedagogy IB:Modern Society and Education					時間割	火 7-8
科目コード	504-0152	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1～3年生						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
對馬達雄	学校教育課程	教文5-508, 2546	佐藤修司(責)	学校教育課程	教文5-509, 2541		
新井真人	学校教育課程	教文5-505, 2542	池田全之	学校教育課程	教文5-506, 2544		
浦野 弘	教育実践総合センター	教育実践総合センター, 2698	原 義彦	学校教育課程	教文5-507, 2545		
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようを、教育哲学、教育史学、教育社会学、教育法学、社会教育学、教育工学等のさまざまな分野から分析を加える。 2. 到達目標 教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教育学関連科目の導入的位置にある。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. ナチズムと反ナチズム教育：ナチズム教育に対抗して独自の教育実践を行ったアドルフ・ライヒヴァインおよびヤヌシュ・コルチャックの思想と行動を取り上げる。(對馬達雄) 2. 教育と社会：教育は人間が社会で生きていくためには不可欠である。人間は教育により文化を習得し多様な社会的存在へと形成されていく。人間は教育により社会化されていくとよい。ここでは教育社会学の立場から社会化のメカニズムに関する理解を深める。(新井真人) 情報化社会におけるリテラシー：国は、2010年に「ユビキタスネットワーク社会」の実現を目指し「u-Japan 政策」を展開しようとしています。このように社会の情報化が進展する中、ヒトの情報処理過程を手がかりにして、「学ぶ」ということの意味と、メディア・リテラシーについて考える。(浦野 弘) 4. 教科書問題などを通じて国家と教育の関わりについて考察すると同時に、校則や体罰などの問題から学校と子供・親との関わりを学ぶ。(佐藤修司) 5. ヨーロッパ近代と理性の関係を、理性主義の限界と感性の復権の立場から論じ、現代人の故郷喪失、疎外状況を考察する。そして、同時に新しい人間理解のあり方を学ぶ。(池田全之) 6. わが国の社会情勢と生涯学習：構造改革が進展する中での生涯学習推進の現状と課題、および私たち一人ひとりの生涯学習のあり方について考える。(原 義彦)							
授業に関連するキーワード	A. ライヒヴァイン	教育的抵抗	社会化と逸脱行為				
コンピュータ・リテラシー	情報処理	近代的理性	生涯学習				
<b>成績評価の方法及び合格判定基準</b> レポート、試験、出席等を総合して評価する。							
<b>教科書・参考書等</b> アルムンク『反ナチ・抵抗の教育者ライヒヴァイン1898-1944』昭和堂							

授業科目名	和文：芸術と文化Ⅱ－世界の音楽と文化－ 英文：Art and CultureⅡ：World Music				時間割	水 9-10	
科目コード	504-0188	必修・選択	選択	単位・時間数	2・15	開設学期等	2期
受講対象学生							
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	芸術と文化Ⅰ－日本の音楽文化－						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
武内 恵美子	音楽教育講座	2565					
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜日 13:00～17:00			場所：教育文化学部2号館 206号室			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 現在世界の音楽文化の基準となっている西洋音楽の歴史と、世界の音楽を学ぶことによって、国際的な視野に立った音楽文化の判断ができるようになることを目指す。 2. 到達目標 世界の代表的な音楽文化の特徴を理解し聞き分けることができるようになる。また音楽文化を優劣なく判断・評価できるようになる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 世界中の音楽についての知識を幅広く身に付けることで教養としての音楽と柔軟な姿勢と判断能力を培う。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. ガイダンス 世界の音楽を学ぶために、西洋音楽史1 古代の音楽 2. 西洋音楽史2 中世・ルネサンスの音楽 3. 西洋音楽史3 バロックの音楽 4. 西洋音楽史4 古典派の音楽 5. 西洋音楽史5 ロマン派の音楽 6. 西洋音楽史6 近現代の音楽 7. 世界の音楽1 インドネシアの音楽 8. 世界の音楽2 インドの音楽 9. 世界の音楽3 アフリカの音楽 10. 世界の音楽4 西アジア・中央アジアの音楽 11. 世界の音楽5 ヨーロッパの音楽 12. 世界の音楽6 オセアニアの音楽 13. 世界の音楽7 アメリカ大陸の音楽 14. 世界の音楽8 東アジアの音楽（含：日本の音楽） 15. 試験							
授業に関連するキーワード	西洋音楽史	民族音楽学	世界の音楽				
音楽	文化						
<b>成績評価の方法及び合格判定基準</b> 試験 70%、受講姿勢（含・出席点）30%により評価します。 試験には授業中に配布したプリント、ノート他資料持ち込み可とします。 注意をしても受講態度を改めない場合は当日の出席はカウントしません。 30分以上遅刻の場合は欠席とみなします。 全体の1/3(5回)以上欠席した場合は試験を受けても単位は認定しません。 事情により試験を受けられなかった場合、申し出れば再試験を行います。 追試験は行いません。 出席が足りていても試験を受けない場合は単位は認定しません。							
<b>教科書・参考書等</b> なし 授業でプリントを配布。							

授業科目名	和文：芸術と文化 III B－絵画にみる音楽と文学の照応－ 英文：Art and Culture IIIB:Common Themes in Arts				時間割	木 5-6	
科目コード	504-0224	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～2年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	アジア美術表現論						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
猪巻 明	美術教育	教文 1-315・2556					
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日 16:00～18:00 場所：教文 1-315							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 芸術の融合（文学、絵画、音楽の照応）絵画と音楽の同一主題による芸術表現を追求する。 ルネサンスから現代までの絵画芸術と音楽芸術（交響曲、交響詩、舞踏曲、歌劇、楽劇、歌曲、童謡、歌謡曲、邦楽、その他）を比較しながら、作品の時代背景と、画家と作曲家についての芸術における係わりを学ぶ。 2. 到達目標 1) 近代の西洋音楽が文学（詩、小説、戯曲）と絵画の影響のもとに成立していることが理解できる。 2) 西洋美術史の中で、イタリアルネッサンス（15世紀）、フランスロココ王朝時代（18世紀）、フランス象徴派・印象派（19世紀）、イギリスラファエル前派（19世紀末）、ベルギー象徴派・ウィーン分離派（19世紀から20世紀初頭）、フランス・ナビ派（19世紀末から20世紀前半）のそれぞれの芸術運動と様式が理解できる。 3) 日本の浮世絵がフランス印象派の画家を始め多くの西洋の画家に影響を与え、その上西洋の近代音楽にまで示唆していることを理解して、説明できる。 4) 近代日本画の中には日本の歌（歌曲、童謡）や歌謡曲を反映した作品が多くみられ、この二つはいかに大衆文化と密着しているかを理解して、説明できる。 5) 邦楽と浮世絵、近代日本画と浮世絵版画と邦楽との対応により、日本の江戸時代以来の音楽と絵画の係わりを理解して、説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 絵画と音楽の同一主題による様々な芸術表現の追求により、一般教養としての芸術の理解を手助けしようとしたものです。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> CD、ビデオ等（音楽）拡大投影機、スライド、ビデオ等（絵画）による鑑賞を主として音楽と絵画の照応について学ぶ。 1 レスピーギ「交響詩ポッティチェッリの三枚の絵」（春、東方三博士の礼拝、ヴィーナスの誕生） 2 ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」「交響詩海」ストラヴィンスキー「春の祭典」プーシェ「牧神とシューリンクス」 3 ラヴェル「タフニスとクロエ」シャガールが描いたパリ、オペラ座の天井画。ダフニスとクロエを描いた画家達 4 ドビュッシー「選ばれた女」19世紀末英国ラファエル前派作品と同一テーマの音楽 5 ドビュッシー「ベレアスとメリザンド」モーリス・ドニの「セザンヌ礼讃」に描かれたメーテルリンクと親交のあったナビ派の画家達 6 R. シュトラウス「サロメ」モローの「雅歌」と矢代秋雄の「ピアノ協奏曲」ヨハネ伝に登場するサロメを描いたイタリアルネッサンス・フィレンツェ派の画家達 7 ドビュッシー「彫刻」のアレゴリーとマーラー第5交響曲と映画「ベニスに死す」 8 ヴィバルディ「四季」暦絵とブリュゲル作品 ジャン・フランソワ・ミレーの四季を描いた作品 9 プッチーニ 歌劇「蝶々夫人」小早川清「お蝶夫人」と「蝶々夫人」初演の舞台衣装デザイン画 10 團伊玖磨 歌劇「夕鶴」北沢映月「ある月の安英さん」と福田豊四郎の挿絵「夕鶴」 11 日本の歌と近代日本画作品 山田耕筰「この道」と山本丘人「残夢抄」 堂本印象「坂」 三浦文治「動物園行楽図」 12 歌謡曲と近代日本画作品 美空ひばり、石川さゆり、小林幸子、その他 13 邦楽の世界、鈴木春信「白鷺」と坂東玉三郎の舞踊「白鷺」、鏑木清方「道成寺」と坂東玉三郎の舞踊							
授業に関連するキーワード	ポッティチェッリ	ドビュッシー	ラヴェル				
鈴木春信	シャガール	クリムト	山本丘人				
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 出席を前提とした、3回のレポート（授業5回につき1回のレポート）の評価100%							
<b>教科書・参考書等</b> 毎回の講義に用いるため作成したプリントを配布する。 参考書 種村季弘訳「象徴主義と世紀末芸術」 河村錠一郎著「ピアズリーと世紀末」 高階秀爾著「名画を見る眼」「ルネッサンスの光と闇」「美の回廊 ドラクロワからミロまで」							

授業科目名	和文：情報と知識・技術B－情報リテラシー 英文：Information Processing B:Information Literacy for Library Use				時間割	水 1-2	
科目コード	504-0288	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義・演習	備考	50名以内				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	図書館概論，図書館サービス論，図書館経営論						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
附属図書館長	附属図書館	2282					
オフィスアワー	曜日及び時間：		場所：				
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 人類が蓄積した膨大な図書情報，最新の専門分野の論文情報，現代社会の各種情報を各自の勉学や卒業研究を含めた知的活動に役立てるため，秋田大学及び全国の大学の図書及び専門論文データベースの構成並びにインターネットの概念などを理解すると共に各種検索システムを利用して目的の情報を効率的に得る方法を学ぶ。また，調査収集した情報を解析，まとめてレポートを作成する方法を学ぶ。							
2. 到達目標 1) 秋田大学の図書検索システムの概要を簡単に説明できると共に，システムを利用して目的の図書・雑誌等を検索できる。 2) 全国の大学図書館等の蔵書検索システムを利用し必要な資料を検索できる。 3) 各種データベースから情報や論文を検索できる。 4) インターネット上の検索エンジンを利用した情報検索ができる。 5) 任意のテーマについて，上記手法により情報を収集し，調査研究すると共に，結果をレポートにまとめることができる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
課外の学習を進めるに当たって，図書館の利用，即ち図書情報の利用に習熟することは必要不可欠であり，その意味では本科目は全カリキュラムの最初に位置するものである。また，教育文化学部における，学校図書館司書教諭及び図書館司書資格取得のための授業とも関連している。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
1. 図書館情報学概論 講義：学術情報全般についての概論（附属図書館長） 講義内容全般に関するガイダンス							
2. 秋田大学附属図書館で所蔵の図書・雑誌の検索方法 解説・演習（図書館職員） Web版OPAC（秋田大学附属図書館蔵書目録）の使い方							
3. 各種データベースによる雑誌論文の検索方法 解説・演習（図書館職員） 1) 論文情報ナビゲータ（CiNii）の使い方 2) その他のデータベースの使い方							
4. 全国大学図書館等所蔵の図書・雑誌の検索方法 解説・演習（図書館職員） 1) WebCAT（全国大学図書館蔵書検索）の使い方 2) NDLOPAC（国立国会図書館蔵書検索）の使い方							
5. インターネットの活用 解説・演習（図書館職員） 1) オンラインジャーナルの活用 2) 秋田大学附属図書館ホームページを活用した学術情報の検索							
6. レポート・論文のまとめ方（附属図書館長） 具体的なテーマについてのレポートあるいは論文の典型的作成法を講義および演習する。							
7. 試験（附属図書館長）							
授業に関連するキーワード	情報検索	インターネット	図書館				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
評価：100点満点とし授業への取り組み（30％）と試験（70％）により評価します。 A：100点～80点 B：79点～70点 C：69点～60点 D：60点未満 出席日数（試験日を除く）が2/3に満たない者は試験を受けられません。 成績不振者、出席日数が足りない者に対して、レポート提出や追試験などの救済措置は行いません。							
<b>教科書・参考書等</b>							
必要に応じて資料を配布します。							

授業科目名	和文：哲学の世界 III - 自然と環境の思想 - 英文：Philosophy III: Philosophy of Nature and the Environment				時間割	月 1-2
科目コード	504-0401	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 2期
受講対象学生	全学部1～3年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	科学史・科学哲学（またはそれに相当する知識・思考）					
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号			
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的  2. 到達目標 「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b>						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 「自然環境を守ろう」とよく言われる——それは、環境を守ることが結局私たち人間の利益になるからか？ それとも、動物や植物、さらに水や土も、それ自体かけがえのない価値をもっているからか？ そもそも自然とは何か？ 自然科学の対象か、それとも科学を超えた何かを含んでいるのか？ この授業では、人間が歴史上、自然をどのように捉えてきたかを振り返りつつ、自然環境をめぐる現代の哲学的諸問題について考える。						
授業に関連するキーワード						
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 試験						
<b>教科書・参考書等</b>						

授業科目名	和文：哲学の世界Ⅳ－論理学入門－ 英文：Philosophy IV: Introduction to Logic				時間割	火 7-8	
科目コード	504-0421	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
勝守 真	国コミ		教文 3-228・2648				
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的  2. 到達目標 「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 「私がいま言っていることはウソだ」と、だれかが言ったとしよう。その言葉はそれ自身、ウソか本当か？ 論理学では、これを「うそつきのパラドクス(逆説)」という。それと似た例として、「落書きするな」という落書き、「私の命令に従うな」という命令などはどうだろうか？ この授業では、記号論理学の基礎を学びながら、パラドクスの問題などを手がかりとして、論理と言語、論理と哲学との関係についても考えてみよう。							
授業に関連するキーワード							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 試験							
<b>教科書・参考書等</b>							

授業科目名	和文：人権と共生 I B－日本史上の差別と被差別－ 英文：Human Rights IB:History of Minorities in Japan				時間割	集中	
科目コード	505-0044	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考	別途掲示により通知				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
熊田亮介	文化環境		教文3-337・2668				
オフィスアワー			曜日及び時間：木 14:30～17:30		場所：教文3－337（電話：889-2668）		
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 被差別部落・ハンセン病・異民族・少数民族など、日本史上における多様で広範な差別・被差別の歴史的構造とその特質を検証し、差別解消への取り組みの歴史的経緯とあるべき社会像について考える。							
2. 到達目標 講義で取り上げる問題について、関係文献を読み、多様な視点から検討を加えて、自分の意見を取りまとめる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
1. 現代日本における偏見と差別							
2～3. 沖縄から／沖縄へ ウチナーとヤマトンチュー、沖縄人にとっての歴史を検証し、その歴史的・現代的課題について考える。							
4～5. ハンセン病と被差別民 ハンセン病と被差別部落の歴史をたどり、その歴史的・現代的課題について考える。							
6～7. アイヌ民族と在日朝鮮・韓国人 アイヌ民族と在日朝鮮・韓国人の歴史をたどり、その歴史的・現代的課題について考える。							
8. ケガレとキヨメ、異化と同化							
授業に関連するキーワード	偏見		差別		マイノリティー		
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b>							
各授業時間に行う小レポートと複数回のレポートをもとに評価する。							
<b>教科書・参考書等</b>							
教科書は使用せず、授業用資料をその都度配布する。参考書は随時紹介する。							



授業科目名	和文：障害と共生 I B－福祉と人権－ 英文：Mainstreaming of People with Disabilities IB:Disabilities and co-existence				時間割	火 9-10
科目コード	505-0064	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 2期後半
受講対象学生	全学部					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号			
内海 淳	障害児教育		教文 4-511・2548			
オフィスアワー 曜日及び時間：月－金 12:00－12:50			場所：教文 4-511			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 障害者及び障害者福祉の基礎的理解をする。 2) 障害者の権利擁護の意義を理解する。 2. 到達目標 1) 障害者問題は身近な同類であることを説明できる。 2) ノーマライゼーションの意味を説明できる。 3) 障害者福祉の特質と仕組みを説明できる。 4) 人権侵害の背景と権利擁護の在り方を説明できる。 5) 当事者活動の意義を説明できる。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b>						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 障害の概念と障害者の現状 2. 障害者福祉の理念：ノーマライゼーション 3. 障害者福祉施策の特質 4. 障害者福祉の仕組みと現状 5. 障害者への人権侵害 6. 障害者の権利擁護 7. 権利擁護としての当事者活動						
授業に関連するキーワード		障害者	障害者福祉	ノーマライゼーション		
人権侵害		権利擁護	当事者活動			
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>						
<b>教科書・参考書等</b>						

授業科目名	和文：医学と健康 I B－生物学と医学－ 英文：Medical Science and Health IB:Modern Infectious Diseases				時間割	火 7-8	
科目コード	505-0072	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1～3年生						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
佐々木雄彦	医学部			鈴木紀行	公立米内沢総合病院		
萱場広之	医学部			小松眞史	市立秋田総合病院		
榑木俊聡	医学部			鈴木聡	医学部		
荏原順一	医学部						
オフィスアワー 曜日及び時間：				場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 生物学を医学的観点から学ぶ。 2. 到達目標 (1) 感染に対する生体防御反応の主役である免疫現象について理解する。 (2) 新興・再興感染症を理解する。 (3) ウイルス性肝炎の種類とその感染源・症状・予防方法を理解する。 (4) 逆遺伝学の研究手法を理解する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 予定 10/2 微生物学 佐々木雄彦 10/9 生体防御の仕組み 萱場広之 10/16 免疫学概論 榑木俊聡 10/23 感染の仕組み 荏原順一 10/30 新興・再興感染症 鈴木紀行 11/6 ウイルス性肝炎 小松眞史 11/13 遺伝子改変技術 鈴木聡 11/20 レポート提出							
授業に関連するキーワード		感染症		免疫		ウイルス	
細菌		遺伝子改変技術					
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 出席状況（2/3以上）とレポート（提出必須）による評価。							
<b>教科書・参考書等</b> 指定しない							

授業科目名	和文：医学と健康 II B－女性の健康と社会－ 英文：Medical Science and Health IIB:				時間割	火 5-6	
科目コード	505-0084	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
廣嶋清則	廣嶋法律事務所	863-7215	後藤 隆	医学部・第一内科	6104		
嘉藤 茂	外旭川病院・ホスピス科	868-5511	武村尊生	医学部附属病院・精神科(心理療法士)	6122		
加賀谷学	かがや内科医院	834-0145	熊谷 仁	医学部・産婦人科	6163		
片寄喜久	医学部・第二外科	6132	小原幹隆	医学部・産婦人科	6163		
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 女性の健康に及ぼす喫煙の影響を理解する。 2) 女性の健康に及ぼす飲酒の影響を理解する。 3) 女性に多い精神疾患について理解する。 4) 女性の悪性腫瘍の中で最も頻度の高い乳癌について理解する。 5) 性感染症について理解する。 6) 女性生殖器の主な疾患について理解する。 7) 女性と死の臨床について理解する。 8) 働く女性に対する性差別社会の実態を、事例を中心に把握する。 2. 到達目標 1) 禁煙の具体的な方法を説明できる。 2) アルコール肝障害について基本的な知識を説明できる。 3) 女性に多い精神疾患について基本的な知識を説明できる。 4) 乳癌について基本的な知識を説明できる。 5) 性感染症について基本的な知識を説明できる。 6) 女性生殖器の主な疾患について基本的な知識を説明できる。 7) ホスピスについての基本的な知識を説明できるとともに、いまをどう生きるかについて述べるができる。 8) 性差別の原因を探り、是正の方策を述べるができる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 女性の健康と社会の講義の一環である。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 人類の歴史が始まって以来、女性と男性がそれぞれの役割を分担することは、自然の摂理として深く考えることなく受け入れられてきた。しかしながら、女性が社会に進出し大きな役割を果たしている現状を考えると、女性という存在をあらためて認識しなおす必要がある。そこで、社会に出て働く女性が直面する肉体的・精神的問題や、働く女性を取り巻く受け入れ環境などについて、医学の立場から正しく理解するため以下のコースを開講する。なお、授業の進め方はすべて教官によるモデル授業である。 第1回 11月27日 禁煙のすすめ：加賀谷学（かがや内科医院） 第2回 12月 4日 飲酒の功罪：後藤 隆（医学部・第一内科） 第3回 12月11日 女性に特有の精神医学的問題とその対策：武村尊生（医学部附属病院・精神科） 第4回 12月18日 女性の健康医学（1）：片寄喜久（医学部・第二外科） 第5回 12月25日 女性の健康医学（2）：熊谷 仁（医学部・産婦人科） 第6回 1月15日 女性の健康医学（3）：小原幹隆（医学部・産婦人科） 第7回 1月22日 死の臨床：嘉藤 茂（外旭川病院・ホスピス科） 第8回 1月29日 働く女性と性差別社会：廣嶋清則（廣嶋法律事務所）							
<b>授業に関連するキーワード</b>							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 出席回数、授業態度							
<b>教科書・参考書等</b>							

授業科目名	和文：医学と健康 III B-加齢と保健医療- 英文：Medical Science and Health III B:aging and health care				時間割	木 3-4																																
科目コード	505-0092	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期																															
受講対象学生	全学共通 1・2年																																					
授業の形式	講義	備考																																				
履修する際に前提とする授業科目名																																						
内容的に密接に関係する授業科目名																																						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号																																				
浅沼義博	医学部保健学科	C-102・6524																																				
ほか看護学専攻教員																																						
オフィスアワー	曜日及び時間：適宜担当教官と連絡			場所：適宜担当教官と連絡																																		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 加齢に伴う身体的精神的变化を理解する。 2) 高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを理解する。 2. 到達目標 1) 加齢に応じた健康保持法、医療への関わり、医療側の対応が理解できる。 2) 加齢と保健医療の現状を理解し、高齢者へのいたわりの心をもてる。 3) 加齢と保健医療について、具体的に問題提起し考察することができる。																																						
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。																																						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:30%">担当</td> <td>講義の内容</td> </tr> <tr> <td>1. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/4/07</td> <td>高齢社会における保健医療の現状と課題 (1)</td> </tr> <tr> <td>2. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/11</td> <td>高齢社会における保健医療の現状と課題 (2)</td> </tr> <tr> <td>3. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/18</td> <td>高齢社会における保健医療の現状と課題 (3)</td> </tr> <tr> <td>4. 柳屋道子：地域・老年看護学講座 10/25</td> <td>障害者と加齢 (1)</td> </tr> <tr> <td>5. 柳屋道子：地域・老年看護学講座 11/1</td> <td>障害者と加齢 (2)</td> </tr> <tr> <td>6. 煙山晶子：地域・老年看護学講座 11/8</td> <td>高齢者ケア (1)</td> </tr> <tr> <td>7. 煙山晶子：地域・老年看護学講座 11/15</td> <td>高齢者ケア (2)</td> </tr> <tr> <td>8. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座 11/22</td> <td>高齢者の心のケア (1)</td> </tr> <tr> <td>9. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座 11/29</td> <td>高齢者の心のケア (2)</td> </tr> <tr> <td>10. 水沼秀夫：基礎看護学講座 12/6</td> <td>加齢と栄養 (2)</td> </tr> <tr> <td>11. 水沼秀夫：基礎看護学講座 12/13</td> <td>加齢と栄養 (2)</td> </tr> <tr> <td>12. 吉崎克明：基礎看護学講座 12/20</td> <td>加齢と身体機能変化</td> </tr> <tr> <td>13. 浅沼義博：臨床看護学講座 1/10/08</td> <td>加齢と手術</td> </tr> <tr> <td>14. 兒玉英也：母子看護学講座 1/24/08</td> <td>中・高年女性の健康問題</td> </tr> <tr> <td>15. テスト</td> <td>1/31/08 記述式テスト</td> </tr> </table>							担当	講義の内容	1. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/4/07	高齢社会における保健医療の現状と課題 (1)	2. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/11	高齢社会における保健医療の現状と課題 (2)	3. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/18	高齢社会における保健医療の現状と課題 (3)	4. 柳屋道子：地域・老年看護学講座 10/25	障害者と加齢 (1)	5. 柳屋道子：地域・老年看護学講座 11/1	障害者と加齢 (2)	6. 煙山晶子：地域・老年看護学講座 11/8	高齢者ケア (1)	7. 煙山晶子：地域・老年看護学講座 11/15	高齢者ケア (2)	8. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座 11/22	高齢者の心のケア (1)	9. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座 11/29	高齢者の心のケア (2)	10. 水沼秀夫：基礎看護学講座 12/6	加齢と栄養 (2)	11. 水沼秀夫：基礎看護学講座 12/13	加齢と栄養 (2)	12. 吉崎克明：基礎看護学講座 12/20	加齢と身体機能変化	13. 浅沼義博：臨床看護学講座 1/10/08	加齢と手術	14. 兒玉英也：母子看護学講座 1/24/08	中・高年女性の健康問題	15. テスト	1/31/08 記述式テスト
担当	講義の内容																																					
1. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/4/07	高齢社会における保健医療の現状と課題 (1)																																					
2. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/11	高齢社会における保健医療の現状と課題 (2)																																					
3. 宮本郁子：地域・老年看護学講座 10/18	高齢社会における保健医療の現状と課題 (3)																																					
4. 柳屋道子：地域・老年看護学講座 10/25	障害者と加齢 (1)																																					
5. 柳屋道子：地域・老年看護学講座 11/1	障害者と加齢 (2)																																					
6. 煙山晶子：地域・老年看護学講座 11/8	高齢者ケア (1)																																					
7. 煙山晶子：地域・老年看護学講座 11/15	高齢者ケア (2)																																					
8. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座 11/22	高齢者の心のケア (1)																																					
9. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座 11/29	高齢者の心のケア (2)																																					
10. 水沼秀夫：基礎看護学講座 12/6	加齢と栄養 (2)																																					
11. 水沼秀夫：基礎看護学講座 12/13	加齢と栄養 (2)																																					
12. 吉崎克明：基礎看護学講座 12/20	加齢と身体機能変化																																					
13. 浅沼義博：臨床看護学講座 1/10/08	加齢と手術																																					
14. 兒玉英也：母子看護学講座 1/24/08	中・高年女性の健康問題																																					
15. テスト	1/31/08 記述式テスト																																					
授業に関連するキーワード	加齢	保健医療	健康																																			
ケア	栄養	障害	身体機能変化																																			
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 講義出席状況 (2/3 以上) を満たした上で、学習意欲・態度 (10 %)、テスト (90 %)																																						
<b>教科書・参考書等</b> 特に、指定しない。																																						

授業科目名	和文：人権と共生 II B－教育と人権－ 英文：Human Rights IIB:Education and Human Rights				時間割	火 7-8	
科目コード	505-0104	必修・選択	選択	単位・時間数	1・7	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
佐藤修司	教育文化学部		5-509・2541				
オフィスアワー 曜日及び時間：金曜日			場所：教育文化学部 5-509				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 教育の場面を中心にしながら、人権を考える視点を学ぶ  2. 到達目標 教育における、親、子ども、教師、住民、国家などの様々な主体間の権利・義務関係を理解し、具体的場面での人権問題への視点、対処方法などを習得する。授業を通じて、自らのこれまでを振り返り、これからの展望することで、「自分くずしと自分づくり」を考える視点を獲得する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教育文化学部の基礎科目出る生涯学習論 2・3や、専門科目である教育文化行政論などの基礎に位置付くとともに、全学部学生にとっての基本的、社会的な教養としても位置付く。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 管理主義、能力主義といった教育の原理的問題と人権との関係を高sつし、教育課程や生徒・生活指導などの教育実践における人権の問題を検討し、さらに、人権教育、平和教育の問題についても考える。 1. 教育における管理主義：体罰をめぐって 2. 教育における管理主義：校則をめぐって 3. 教育における能力主義：受験競争をめぐって 4. 教育における人権問題：いじめをめぐって 5. 教育における人権問題：不登校をめぐって 6. 教育における平和と戦争							
授業に関連するキーワード	人権教育	平和教育	管理主義				
能力主義							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 出席 (20%)、履修表 (20%)、レポート (30%)、最終試験 (30%)							
<b>教科書・参考書等</b> 特になし							

授業科目名	和文：人権と共生 III－男女共生論－ 英文：Human Rights III:Exploratory Gender Issues			時間割	木 3-4
科目コード	505-0121	必修・選択	単位・時間数	1・	開設学期等 2期前半
受講対象学生	全学部				
授業の形式	講義・学生参加型	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名	ジェンダー論				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
望月 一枝	教科教育	教文 1-206・2552			
オフィスアワー	曜日及び時間：水 7,8 時限		場所：教文 1-206		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 男女が共に生きるためにジェンダー・センシティブな視角を獲得する。 2. 到達目標 現代の様々な生活の問題をジェンダーの視点で見ることができる資質と能力を獲得する。					
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 共生を考えるうえで、基礎的・基本的な教養として位置づけられる。					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 現代日本の男性問題 2. 現代日本の女性問題 3. 高齢者社会における男性・女性問題 4. セクシュアリティとジェンダー 5. セクシャルハラスメント 6. 男女共生社会と家庭 7. 男女共生社会と社会政策 8. 自分の学びをナラティブとして書く					
授業に関連するキーワード	男性問題	女性問題	セクシュアリティ		
ジェンダー	セクシャルハラスメント	社会政策			
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 発表 (30 点)、レポート (40 点)、自分の学びを振り返るナラティブ (30 点)					
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：『性現象論 差異とセクシュアリティの社会学』加藤秀一 勁草書房、『恋愛結婚は何をもたらしめたか 性道徳と優性思想の百年』加藤秀一、ちくま新書 参考書等：「男女共同参画統計データブックー日本の女性と男性」 国立女性会館					

授業科目名	和文：医学と健康 VII B－生命誕生の科学－ 英文：Medical Science and Health VII B: The Science of Human Birth				時間割	木 7-8	
科目コード	505-0162	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学生						
授業の形式	講義	備考	18年度以降入学者				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
兒玉英也	医学部保健学科	C-114・884-6513		吉崎克明	医学部保健学科	C-104・884-6509	
水沼秀夫	医学部保健学科	C-113・884-6522		佐々木久長	医学部保健学科	C-407・884-6506	
大友和夫	医学部保健学科	C-408・884-6510		工藤俊輔	医学部保健学科	C-305・884-6520	
オフィスアワー	曜日及び時間：月曜日 16:00-17:00			場所：C-114			
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 ヒトの生命誕生に関わる医学として、先天異常、生殖医療、性分化および性行動に焦点を絞り、生化学（遺伝学）、解剖学（発生学）、生理学（大脳生理学）、心理学の基礎概念、ならびに先天異常、生殖医療、性分化異常に関わる様々な臨床的課題について学ぶ。							
2. 到達目標 1. 先天異常、性分化のメカニズムに関する概念を理解する。 2. 先天異常、性分化異常について、生理学的、医学的、ならびに理学・作業療法的観点から幅広い知識を得る。 3. 生殖医療における倫理問題について理解を深める。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
生命科学に関連する分野を学ぶ学生にとっては、生殖医療、先天異常や性分化異常、性行動異常などの生命誕生に関わる様々な異常を理解する基盤となるものである。保健学科学生には、専門教育の理解を深めるために有益なものである。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
第1回 11月29日 担当：水沼 「生命誕生に関わる遺伝学の知識」 遺伝学の基本概念について復習し、遺伝子変異の基礎概念、点突然変異、対立遺伝子、などの、遺伝子異常に関わる基礎知識を得る。また、減数分裂時の染色体の状態、異数体、倍数体、欠失などの構造異常、の概念について理解する。 (評価法) 講義内容に関連した課題をレポートとして提出させ、その記述内容によって評価を行う。							
第2回 12月6日 担当：大友 「生命誕生に関わる発生学の知識」 男性および女性生殖器官の解剖と機能、精子形成、卵子形成、受精と着床、ヒトの初期発生の概略を学ぶとともに、臨界期の概念を理解する。また、環境因子（ウイルス感染、放射線、薬剤、化学物質）による先天異常発生のメカニズムについて学ぶ。 (評価法) レポートを提出してもらい、それに基づいて評価を行う。							
第3回 12月13日 担当：兒玉 「遺伝性疾患の概要と遺伝カウンセリング」 伴性劣性遺伝性疾患を中心に、それに関わる遺伝カウンセリング、出生前診断について学ぶ。 (評価法) 第4回の講義終了時に試験（内容は第3、4回目の講義）を行う。							
第4回 12月20日 担当：兒玉 「生殖医療と倫理」 不妊症の治療において、配偶子の供与に関する人工授精や体外受精の臨床的概念を学び、それにより発生する倫理問題についての理解を深める。 (評価法) 第4回の講義終了時に試験（内容は第3、4回目の講義）を行う。							
第5回 1月10日 担当：吉崎 「性の分化に関わる生理学の知識」 胎生期における生物学的性分化のメカニズム、および大脳生理学的観点から男性と女性の違いについて理解する。また、性同一障害などの性別違和症候群発症のメカニズムを、大脳生理学の観点から学ぶ (評価法) 講義終了時に試験を行う。							
第6回 1月24日 担当：佐々木 「ヒトの性行動に関わる心理学」 人間の性の意識（社会的性同一性及び生物学的性同一性）や性行動について、その正常な発達過程について学ぶ。また同性愛や性機能不全の心理についても理解する。 (評価法) 評価はレポートで行う。							
第7回 1月31日 担当：工藤 「障害児のこころ・人間のこころ-裸のいのち-」 人間のこころというものは一般的容易にわからない。複雑であるし、一律ではない。捕らえどころがなく矛盾に充ちている。しかし、障害児の場合その不定形ところが素直に表現されて、見えやすい場合がある。特に、重症心身障害児の場合、「いのち」とは何か、まさに「裸のいのち」と接していることを実感することがある。本講義では障害児療育の概論と「いのち」とは何かについての理解を深める。							
授業に関連するキーワード	先天異常	生殖医療	初期発生				
遺伝性疾患	出生前診断	性分化異常	性同一障害				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
出席した講義について、各講義ごとにレポートまたは試験にてA-Dの評価を行う（欠席はD扱い）。 評価C以上の授業が7回の講義中5回以上に達していれば、合格とする。 成績評価の方法：Aを80点、Bを70点、Cを60点とし、平均する。欠席のない学生に関しては、10点を加算する。値が80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとする。							
<b>教科書・参考書等</b>							
特になし。講義時に参考図書を紹介する。							

授業科目名	和文：人権と共生Ⅳ－ボランティア活動論－ 英文：Human RightsⅣ:lecture on Volunteer Activities				時間割	水 5-6	
科目コード	505-0202	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期後半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
教育推進主管（責）							
オフィスアワー	曜日及び時間：		場所：				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 学生がボランティア活動を通じて地域社会の課題に積極的に取り組める基礎を養成する。 2. 到達目標 ボランティア活動の意義と必要性を理解し、自らもその活動に参加するという行動意欲を惹起する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 社会の一員として、共同で社会を支えるための基本的考え方、具体的行動喚起を促す科目として重要な位置付けである。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 県内外のボランティア活動団体の現状と課題、そして期待について、県内のボランティア・NPOの実践者から率直に提案していただく。授業担当者が決まり次第掲示により周知する。  詳細については、決定次第掲示するので、掲示に注意してください。 参考までに平成17年度に実施したものを掲載します。  第1回 ボランティア活動の意義について 第2回 災害時のボランティア活動 第3回 障害を持ちながらボランティア活動 第4回 学校に行かない子ども達を支えるボランティア活動 第5回 いのちを支えるボランティア活動 第6回 環境を守るボランティア活動 第7回 心と命を考えながら地域づくりをするボランティア活動 第8回 引きこもりの若者を支援するボランティア活動							
授業に関連するキーワード	ボランティア	社会貢献	NGO				
NPO	いのち						
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 毎回授業終了後に提出する感想文（レポート）による。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は特に使用しない							



授業科目名	和文：大学生と健康 B－上手に生きる為の基礎知識－ 英文：Students and Health B:A primer of mental and physical health for college students					時間割	木 7-8
科目コード	505-0222	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
苗村育郎	保健管理センター	2287	平野秀人	非常勤講師	2286		
小林政雄	保健管理センター	2285	後藤優子	非常勤講師	2286		
円山啓司	非常勤講師	2286	武村尊生	非常勤講師	2286		
オフィスアワー	曜日及び時間：毎日 9:00-17:00			場所：保健管理センター			
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 複雑な現代社会の生活では心身共に成長期である青年にとっては、社会環境から多くのストレスに晒され日常生活で健康に生き抜く知恵が必要である。増加している成人病（癌、心臓病、脳卒中）の予防は青年期から徹底化する必要がある。この科目は青年が直面している心とからだの健康状況を認識し、将来の生活の支えとなることを目的として行う。							
2. 到達目標 健康で創造的な生活を送るためのもっとも基本的な知識を心と体の両面において身につけることを目指す。身体面では各種の生活習慣病や、感染症、不眠症などの予防法を学び、心理面では性格、人間関係、神経症や鬱病から信仰の問題に至るまで幅広く取り上げる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
心身の健康と社会生活のもっとも基礎的な部分を学ぶ。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
1) 人類はこれまでに経験したことのない未曾有の高齢化社会を経験している。これはたんに成人病の増加ということに留まらず、社会の各部署で個人がどう対処していくかという視点を明確にしておかないと、将来の人類の生存をも脅かしかねない。成人病や癌や痴呆の予防方法、エイズをはじめとする感染症などの基礎知識などについては青年期までに十分な理解を持っておくことが重要であり、日常生活の中での対処の仕方を学んでおくことが必要である。							
2) また、高度情報化社会への移行に伴い、経済・社会情勢が急速に変貌している。このストレスにたえて、人生を健康に生き抜くためには、ますます多くの知恵や知識が必要となってきている。この講義では、深層心理や人格・性格・鬱病や自殺、宗教やカルトの問題なども取り上げて解説する。							
3) 食事、睡眠、性欲、妊娠、出産、外傷や救急処置など、生活上の基本的な事柄についても、時間の許す限り専門家がわかりやすく実践的な知恵と知識を提供するように配慮している。							
4) これらを担当する教官は、内科学、精神医学、婦人科学、救急医学、心理学、宗教学などの専門家であり、各方面からの健康の守り方について、スライドやビデオなども用いて、具体的に講義する。							
授業に関連するキーワード	心と体の健康保険	成人病・鬱病・痴呆	睡眠障害と心身の調子				
生活構造と人生・宗教	飲酒地喫煙の害と発癌	エイズ・妊娠・出産	救急措置・海外渡航				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
期末試験の結果と出席状況（毎回の質疑応答）、及びレポートを統合して行う。							
<b>教科書・参考書等</b>							
『学生と健康』（全国国立大学保健管理施設協議会編集）							

授業科目名	和文：生命と健康 I B－現代日本人に見られる生活習慣病－ 英文：Life and Health IB:Life-related diseases in Japanese				時間割	火 5-6	
科目コード	505-0242	必修・選択	選択	単位・時間数	1・16	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部 1-3 年生						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
福田雅幸	附属病院歯科口腔外科	884-6188	山田祐一郎	医学部老年科	884-6040		
金子善博	医学部健康増進医学分野	884-6088	塩谷隆信	医学部保健学科	884-6531		
石川 誠	医学部眼科学分野	884-6167	清水徹男	医学部精神科学分野	884-6122		
飯塚政弘	医学部消化器内科学分野	884-6103	村田勝敬	医学部環境保健学分野	884-6085		
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 現代日本人に見られる慢性疾患の多くは生活習慣がその発症や進展に大きく関わっていることから生活習慣病とも呼ばれている。この講義の目的は、健康の保持・増進を図るために重要なライフスタイルと健康についての基礎的な知識を習得し、自らが健康的な生活習慣を身につけるとともに、その知識を卒業後の職業生活のなかで活用することができるようにすることである。							
2. 到達目標 1) 生活習慣病の概念を説明できる。 2) 食事、睡眠、スポーツ、嗜好品、ストレスなどが健康に与える影響について説明できる。 3) 口腔ケア、視力維持の重要性を説明できる。 4) 自らのライフスタイルの問題点を生活習慣病の観点から考察できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
現代社会のあり方と健康との関係に興味を持つすべての学生を対象とする。予備知識は必要としない。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
10月2日 副題：咀嚼器官の成長と発達 担当 福田雅幸（口腔外科） 咀嚼器官の成長・発達と生活習慣病について概説する。							
10月9日 副題：現代社会と生活習慣病 担当 金子善博（健康増進） 生活習慣病予防のための予備知識について概説する。							
10月16日 副題：屈折異常と視力 担当 石川 誠（眼科） 屈折異常と視力について解説する。コンタクトと眼鏡、どちらが諸君に適切か？							
10月23日 副題：現代生活と腸 担当 飯塚政弘（消化器） 便通、食事による栄養管理、20代が罹患しやすい腸疾患（過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病）について概説する。							
10月30日 副題：糖尿病と食事 担当 山田祐一郎（老年科） 現代人に多い糖尿病の予防について食事との関連で概説する。							
11月6日 副題：喫煙と肺の病気 担当 塩谷隆信（保健学科） 喫煙の歴史、生体に及ぼす影響、禁煙プログラムを理解する。喫煙は呼吸器以外の疾患とも関連があるとされている。							
11月13日 副題：現代社会と睡眠 担当 清水徹男（精神科） 現代人は睡眠を切りつめて生活している。その健康に与える影響は？諸君の睡眠・覚醒習慣について問いながら解説する。							
11月20日 副題：お酒と健康 担当 村田勝敬（環境保健） お酒の飲み過ぎで起こる肝疾患や依存症を正しく理解し、お酒と健康の関わりを考える。							
授業に関連するキーワード	生活習慣・ライフスタイル	食事・睡眠・スポーツ	ストレス				
疾病予防・健康増進	医療経済	口腔ケア	視力				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
毎回のレポート提出、アンケート提出および出席状況を元に評価する。							
<b>教科書・参考書等</b>							
必要に応じて授業の際に関連図書を紹介する。							

授業科目名	和文：生命と健康Ⅱ－死ぬこと生きること－ 英文：Life and HealthⅡ:prevention of suicide				時間割	水 7-8
科目コード	505-0250	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 2期前半
受講対象学生	全学部1～3年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
(責)吉岡 尚文	理事	理事室 3025	佐々木久長	医学部		
本橋 豊	医学部		金子 善博	医学部		
苗村 育郎	保健管理セン ター		斉藤 征司	秋田県医師会		
オフィスアワー 曜日及び時間：月～金 16:00～			場所：理事室			
<b>授業の目的及び到達目標</b>						
1. 目的 1) 日本および秋田県の自殺の現状を把握する。 2) 自殺予防のためにどのような方策があるかを考える。						
2. 到達目標 1) 1人の人間としていかに生きるかを身につける。 2) 自殺の背景を述べることができる。 3) 心のケアの必要性を説明できる。 4) 社会人として悩みを有する人の相談にのることができる。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b>						
秋田県の重要課題を正面から考え、人間が生を全うすることの意義を身につける。						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>						
1. 秋田県の自殺の現状を具体的な数値をもとに説明。行動目標を把握する。						
2. 自殺の背景の1つとされる精神的、心理的側面を精神医学的に説明する。						
3. 自殺防止の観点から諸外国の活動状況を具体的に述べる。						
4. 秋田県で実際に行っている自殺防止活動－行政と大学の連携						
5. 秋田県で実際に行っている自殺防止活動－医師会活動						
6. 秋田県で実際に行っている自殺防止活動－民間団体の活動						
7. 総合討論（受講人数により小グループによる討論を予定）						
授業に関連するキーワード	自殺	電話相談	うつ状態			
心のケア						
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>						
70%はレポートが主であるが、その中に自分の考えや自身の人生観を表現していること。 小試験も行う（30%）。						
<b>教科書・参考書等</b>						
プリントを配付するので、それを参考とする。						

授業科目名	和文：ライフサイエンスⅡ－生命の連続性－ 英文：Life Science II:Continuity of the Life				時間割	火 3-4	
科目コード	506-0011	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部1-2年(医学部1年(高校で生物未履修者)と教育文化学部1年(特に自然環境選修進学希望者)は特にお勧め)						
授業の形式	講義	備考	積極的に授業に参加する人を大歓迎します。内容的には決して難しい授業ではないですが、単に出席しているだけでは、単位は取得できないと思います。				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
石井照久	教育文化学部		教文4号館411・2681				
オフィスアワー	曜日及び時間：水曜日16時-18時			場所：教文4号館411			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 生命は生命より生じ連続していく。ライフサイエンスのうち、この授業では生命の遺伝、生殖、進化などをマイクロとマクロの両面から学ぶことによって、生命が誕生して以来、どのように現在までの道のりをたどってきたのかを理解することを目的とする。 2) ライフサイエンスの進歩の現状と、生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかを理解することを目的とする。 2. 到達目標 1) 生命観の歴史の変遷を説明できる。 2) 地球上での生命の歴史を概説できる。 3) 細胞のしくみ、生殖のしくみ、遺伝のしくみを説明できる。 4) 現代の生命科学技术の概略を説明できる。 5) 進化学を理解し、現代人の起源を説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 過去の生物分野での学習歴を前提としない。医学部医学科1年で高校生物未履修者、教育文化学部1年で自然環境選修進学希望者、および医学部保健学科1年で高校生物未履修者は、それぞれの専門分野のよい導入教育となるのでお勧めである。またその他の人にとっても21世紀に生きるうえで必須となる生命科学関連の常識を解説する。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 以下1回目から15回目までの進行予定です。本授業では、教科書を使用しますので教科書をあらかじめ購入し、すこしずつ読み進めておいて下さい。また授業時に教科書を持参して下さい。なお各項目の後に教科書以外で各項目に関連する参考図書のうち1冊を記載しましたので参考にして下さい。講義全体の参考図書は参考図書欄を見て下さい。αの部分は視聴覚教材を予定しています。 1. ガイダンス、第1章 生命観の変遷 1) 生物学の始まり「目でみる生物学(三訂版)」 2. 第1章 生命観の変遷 1) 生物学の始まり+α 「目でみる生物学(三訂版)」 3. 第1章 生命観の変遷 2) 自然発生説について 「目でみる生物学(三訂版)」 4. 第2章 生命の誕生について 「図説 生物の世界(三訂版)」 5. 第3章 生命とは細胞とは その1) 「好きになる生物学」 6. 第3章 生命とは細胞とは その2) 「生物学超入門」 7. 第4章 生命の連続 1) 無性生殖と有性生殖 「遺伝子と夢のバイオ技術」 8. 第4章 生命の連続 2) 生命の連続性 「絵でわかる生命のしくみ」 9. 第4章 生命の連続 3) 遺伝子DNAとRNAとタンパク 「遺伝子時代の基礎知識」 10. 第5章 現代の生命科学技术 1) 人体改造時代+α 11. 第5章 現代の生命科学技术 2) 遺伝子と医療+α 12. 第6章 進化学 1) 用不用説、獲得形質の遺伝説、自然淘汰(自然選択) 13. 第6章 進化学 2) 分子の進化、現在の進化説 「分子進化学への招待」 14. 第7章 現代人のルーツをたどる 「DNAに刻まれたヒトの歴史」 15. 期末試験							
授業に関連するキーワード	生命	細胞	連続性				
遺伝子DNA	生命科学技术	クローン	進化				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 期末試験の前回までの出席率が2/3以上であることを前提とします。 そして授業中の課題点(満点10点)と期末試験点(満点90点)の合計が60点以上で合格とします。なお追試は行わないので注意してください。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書「『生きている』ってどういうこと?生命のしくみを探る生物学」培風館 参考書「目でみる生物学(三訂版)」培風館 「遺伝子と夢のバイオ技術」「ゲノムでわかることのできること」以上羊土社 「資源化する人体」「遺伝子組み換え動物」「遺伝子組み換え(食物編)」以上現代書館 「分子進化学への招待」「遺伝子時代の基礎知識」「好きになる生物学」「好きになる人間生物学」「絵でわかる生命のしくみ」「絵でわかる生物の不思議」「絵でわかる進化論」以上講談社 「図説 生物の世界(三訂版)」「DNA鑑定のはなし」「遺伝子でできること、きまらぬこと」以上裳華房 「DNAに刻まれたヒトの歴史」岩波書店 「生物学超入門」日本実業出版社 「図解雑学生物学」ナツメ社 「大学1・2年生のためのすぐわかる生物」東京図書 その他は授業で紹介します。							

授業科目名	和文：ライフサイエンス III B－動物たちの生殖戦略－ 英文：Life Science IIIB:Reproductive strategy of Animals				時間割	火 5-6	
科目コード	506-0024	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部全学年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
河又邦彦	教育文化学部		4-417・889-2590				
オフィスアワー	曜日及び時間：		場所：				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 動物のさまざまな性行動を通して、進化のメカニズムを理解し、ヒトの未来を考える素養を養うことを目的とする。 2. 到達目標 1) ダーウィンの進化論を理解している。 2) 形態や行動の違いを遺伝子という観点から考えることができる。 3) 進化を遺伝子という観点から理解することができる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教養教育							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1) さまざまな進化 2) 適応度と自然淘汰 3) 性とは何か 性の起源 性の利点 4) 色々な感覚器を頼りにした生殖行動 5) オスの戦略 6) メスの戦略 7) 遺伝子とは 8) 動物の行動と遺伝子							
<b>授業に関連するキーワード</b>	進化	ダーウィン	自然淘汰				
性	有性生殖	適応度	遺伝子				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 課題、レポートにより判定する。3回以上休んだ場合は再履修となる。							
<b>教科書・参考書等</b> 特になし。 講義時に参考図書を紹介する。							

授業科目名	和文：生活の科学I B－衣生活の科学－ 英文：Family and Consumer Science IB:Clothing for Quality Life			時間割	金 1-2
科目コード	506-0084	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
受講対象学生	全学部1～3年次				
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
石黒純一	教育文化学部	教文1-304・889-2551			
オフィスアワー 曜日及び時間：金曜日、15:00～17:00			場所：教文1-304		
<b>授業の目的及び到達目標</b>					
1. 目的 衣服の性能と着衣の目的を理解し、生活の場において適切な衣服の選択と着用ができるようになる。					
2. 到達目標 衣服の材料としての繊維・糸・布の関係を説明できる。 表現として衣服を着る場合のポイントを説明できる。 防御のために衣服を着る場合のポイントを説明できる。 現在の自分の着衣状態について説明と評価ができる。 他人の着衣状態について説明と評価ができる。					
<b>カリキュラム上の位置付け</b>					
現代と科学・技術の分野に配置されている科目であるが、「着る人」を前提にして我々の感性に密着した科学・技術を考えたい。					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>					
衣生活のシステムに沿って話をすすめ到達目標に近づく。 (1) 衣服の材料 ー表現素材・防御素材の探索と到達点ー (三回) (2) 衣服の外観 ー美的表現の方法と評価ー (三回) (3) 衣服の性能 ー衣服性能への消費者要求とその実現ー (三回) (4) 衣服の着用 ー着用評価の三つ(衣服内気候、衣服圧、肌触りー (三回) (5) 衣服の廃棄 ー循環型社会における衣服の循環ー (三回)					
授業に関連するキーワード	衣生活	アパレル	シルク		
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>					
定期試験 50%、講義途中の小テスト (25%：提出回数＋ 25%：提出内容)					
<b>教科書・参考書等</b>					
小林茂雄他「衣生活論」(弘学出版)					

授業科目名	和文：ライフサイエンスⅠー分子から人間までー 英文：Life Science I:From Molecules to Mankind				時間割	火 5-6	
科目コード	506-0131	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
川野辺 英昭	教育文化学部	教文 4-415、889-2589					
オフィスアワー 曜日及び時間：火曜日 16時以降 場所：教文 4-415 号室							
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 細胞の分子的成り立ちから始まり、人類の誕生とその進化に至る講義をとおして、生命とは何か、ヒトとは何かを考察する基礎を与える。							
2. 到達目標 1. 生命現象の基本的な仕組みを理解する。 2. 水惑星の誕生や生命の誕生について理解する。 3. 細胞の進化について理解する。 4. 脊椎動物の進化について理解する。 5. 人類の進化について説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教養基礎教育・生命科学分野							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
1. ガイダンス (1回)							
2. 生命の分子的理解・・・細胞の認識と物質構成 (1回)							
3. 動的な生命像・・・情報分子「核酸」と機能分子「タンパク質」の構造、機能、相互作用 (3回)							
4. 生命の誕生・・・地球の誕生、海の誕生、化学進化の結果としての生命の誕生 (1回)							
5. 細胞の進化... 真核生物の誕生（細胞内共生がもたらしたもの） (1回)							
6. 中間試験							
7. 脊椎動物の起源と魚類の進化 (1回)							
8. 生物の陸上進出 (1回)							
9. は虫類から哺乳類へ (1回)							
10. ヒトを生んだ二つの運動革命・・・サルに由来する優れた視覚と器用な手 (1回)							
11. 人類のルーツ・・・出アフリカ (1回)							
12. 日本人の起源 (1回)							
13. 期末試験							
授業に関連するキーワード	細胞の構造	核酸とタンパク質	地球と生命の誕生				
細胞の進化	脊椎動物の進化	人類の誕生と進化					
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
中間試験と期末試験（75%）、小試験とレポート（25%）を総合的に評価して成績を判定する。3分の1以上の欠席は期末試験の受験資格を失う。							
<b>教科書・参考書等</b>							
参考書	「生命150億年の旅」	湯浅精二（新日本新書）					
	「一億個の地球」	井田、小久保（岩波科学ライブラリー）					
	「遺伝子の不思議」	石館三枝子（新日本新書）					
	「ヒトの誕生」	葉山杉夫（PHP新書）					
	「人体は進化を語る」	坂井建雄（Newton Press）					
	「日本人の起源」	尾本恵一（裳華房）					

授業科目名	和文：メカライフB－生活のなかの機械工学－ 英文：Mechalife B : Mechanics in Living				時間割	火 5-6	
科目コード	506-0192	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	2期前半
受講対象学生	全学部1～3年（機械工学科を除く）						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
神谷 修	工学資源学部	工資 2-P304・2730	菅原征洋	工学資源学部	工資 2-M218・2346		
中村雅英	工学資源学部	工資 6-404・2479	三浦公久	工学資源学部	工資 2-M213・2344		
田中 学	工学資源学部	工資 2-P303・2723	巖見武裕	工学資源学部	工資 2-P309・2725		
村岡幹夫	工学資源学部	工資 6-403・2731					
オフィスアワー	曜日及び時間：火曜日 11：00～12：00			場所：工資 2-M213（電話 889-2344）			
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 教養として機械工学に関心を持ち、学ぶ楽しさを知ることが目的とする。							
2. 到達目標 1) 機械工学とは、どのような学問であるのかを説明できる。 2) 生活の中で機械工学がどのように役立っているのかを説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
特に前提としている履修科目はない。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
機械工学に基づいて、新しい技術はどのように開発されたか、またどのような生産活動が行われているか、あるいはどのような工夫がなされているか、もの作りの興味を織り交ぜながら、教養としての内容を次のテーマで講義する。							
10月 2日：人と環境にやさしいものづくり（神谷 修）							
10月 9日：生体と流体力学（中村雅英）							
10月16日：未来を開く工業材料（田中 学）							
10月23日：形と強さの秘密（村岡幹夫）							
10月30日：熱環境と凍結融解（菅原征洋）							
11月 6日：共振・共鳴現象を考える（三浦公久）							
11月13日：車いすのビューティフルデザイン（巖見武裕）							
ホームワーク：報告課題「メカライフを受講して考えたこと」（三浦公久）							
（講義の順序は都合により変更することがある）							
教官によりそれぞれ特色のある工夫がなされ、机上実験、OHPをはじめいろいろな補助教材が使われる。							
授業に関連するキーワード	機械工学			入門			
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
全7回の講義終了後のレポートと、毎回の講義終了時に回収する質問票（講義によっては質問票の形をとらないこともある）の評価を点数化して成績をつける。レポートの評価はA（150）、B（100）、C（50）、D（0：未提出）、質問票の評価はA（50）、B（40）、C（30）、D（0：講義と関係ない質問または質問なし）とし、総合成績は、合計点が500満点中400点以上をA、350点以上をB、300点以上をC、300点未満をDとする。（質問票の評価は講義担当の各教官が行う）							
成績評価例 レポート：A、質問票：A 3回、B 3回、C 1回の場合 $150 + 3 \times 50 + 3 \times 40 + 1 \times 30 = 450 \Rightarrow$ 総合成績A 質問票の評価点が高いので講義に出席し、質問票を書いて提出することが肝要となる。メールアドレスを書き入れておけば（読み違いされないようきれいに書くこと）回答をもらえることがある。							
<b>教科書・参考書等</b>							



授業科目名	和文：コンピュータの科学 I B-コンピュータ科学の基礎- 英文：Computer Science IB:Fundamentals on Computer Science			時間割	火 3-4
科目コード	506-0242	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
開設学期等	開設学期等				2期
受講対象学生					
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
佐々木重雄	教育文化学部	教文4-113			
オフィスアワー 曜日及び時間：水 10:00~17:00 場所：教文4-113					
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解する。 2. 到達目標 データのデジタル化について説明できる。 論理回路についての説明ができる。 コンピュータの構成について説明ができる。 コンピュータの動作について説明できる。 データ表現とその処理について説明できる。					
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 本講義は情報処理技術を習得する基礎教育として、重要なコンピュータの動作に関する基礎的知識を習得させるものである。					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 授業概要は以下のとおりに進める。 1. ガイダンスと基礎知識 (1回) 2. デジタル化について (1回) 3. コンピュータの構成について (3回) 4. データ表現について (3回) 5. ブール代数と論理回路について (4回) 6. 機械命令について (2回) 全て講義で行い、板書を中心とする。 4、5、6の最後には小テストを行う。 基本的には教科書に従って行う。教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。また、授業外では下記の参考書や教科書で紹介されている文献を読んでおくことと理解が進む。					
授業に関連するキーワード	デジタル	ブール代数	論理回路		
アーキテクチャ	データ表現				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 成績評価は3回の小テストを合計した点数で行う。 Aは80点以上、Bは70点以上80点未満、Cは60点以上70点未満、Dは60点未満とする。ただし、小テストは2回以上受けるものとし、1回以下のは放棄とみなす。 テスト時に欠席したものの再試験は行わないものとする。					
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：八村広三郎「計算機科学の基礎」近代科学社 参考書：都倉信樹「コンピュータ概論」情報処理入門コース1、岩波書店 バターソン、ヘネシー「コンピュータの構成と設計」第3版、上・下、日経BP					

授業科目名	和文：コンピュータの科学Ⅱ B-グラフとアルゴリズム 英文：Computer Science IIB:Graph Theory			時間割	水 5-6
科目コード	506-0252	必修・選択	選択	単位・時間数	2・
開設学期等	開設学期等 2期				
受講対象学生	全学部				
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名	コンピュータの科学Ⅰ				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
上田晴彦	教育文化学部	2765			
オフィスアワー	曜日及び時間：	場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 コンピュータ科学の理解に欠かせないグラフ理論について、その基礎事項を理解するとともに、様々な分野に応用が出来るようにする。 2. 到達目標 グラフ理論の基礎事項を理解することを目標とする。(本講義をマスターした受講生は、グラフ理論のより進んだ各論へ進むか、またはグラフ理論を様々な分野に応用することが出来るレベルに到達したと考えてよい。)					
<b>カリキュラム上の位置付け</b>					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 以下のトピックスについて、論述する。 1. グラフとはなにか。 2. グラフとブロック 3. 樹木 4. 連結性 5. グラフの分割 6. さまざまなグラフ 7. 線グラフ 8. グラフの因子分解 9. 平面グラフ 10. 色分け可能性 11. グラフと行列 12. 群 13. グラフの数え上げ 14. 有向グラフ 15. まとめ					
授業に関連するキーワード	コンピュータ科学	グラフ理論			
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 講義内容に基づいた試験を実施し、その結果で評価する。					
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は用いず、講義用プリントを配布する。					

授業科目名	和文：生活の科学 II B－栄養の分子生物学－ 英文：Family and Consumer Science IIB:Molecular Biology of Nutrition				時間割	水 5-6	
科目コード	506-0314	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部 1-3 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
池本 敦	教育文化学部		教文 1-203・2553				
オフィスアワー 曜日及び時間：火 13:00-17:00 場所：教文 1-203（電話：889-2553）							
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 栄養素の生体内での役割や遺伝子との関係を分子レベルで理解することで、食生活と健康との関わりの基礎科学を学ぶ。							
2. 到達目標							
1) 栄養学の成り立ちとその生命科学における位置づけを理解する。							
2) 栄養素の機能を理解するための生化学と分子生物学の基礎を身につける。							
3) 代表的な栄養素の機能を分子レベルで説明できる。							
4) 食生活と生活習慣病との関わりや遺伝子組換え食品など、食の安全に関する最近の問題点を指摘・説明できる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
食品成分や栄養素を題材として、生化学と分子生物学の要点を講義する。栄養学は生命科学の応用的領域であり、生物学や化学の知識を実生活に結びつけるような内容を取り扱う。高校の化学・生物の未履修者は本授業によって当該分野の内容に触れることができる。また、ヒトが生活していく上で必要な食の安全と健康に関する教養的題材を扱う。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
原則として1回の授業でそれぞれ下記の項目1つを講義する。							
1) ガイダンス：生命科学領域における栄養学の成り立ちと目的							
2) 総論：生体を構成する物質と細胞							
3) 総論：分子栄養学とヒトの遺伝子							
4) グルコース代謝と糖尿病							
5) タンパク質・アミノ酸と生体機能							
6) 必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康 (1)							
7) 必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康 (2)							
8) コレステロール代謝と健康							
9) 抗酸化物質やビタミンC・Eと活性酸素・フリーラジカル							
10) β-カロチン・ビタミンAと視覚機能・遺伝子発現							
11) ビタミンD・カルシウムと骨形成・細胞内情報伝達							
12) 必須無機元素の生体内機能							
13) 生活習慣病の遺伝子と栄養							
14) 肥満と遺伝子							
15) 遺伝子組換え食品							
授業に関連するキーワード	栄養	食品	生化学				
分子生物学	遺伝子	生活習慣病					
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b>							
出席30%、試験50%、レポート20%で評価する。ただし、出席率が2/3以上であることが単位取得の必須条件とする。詳細な評価基準は初回の授業で説明するが、出席は出席票を記入することにより取る。試験は出題範囲を分割して、複数回実施する。レポートは、最終講義の時に課題を提示する。							
<b>教科書・参考書等</b>							
教科書は使用しないが、通じページ番号の付いた資料を毎回の授業で配布し、教科書的に使用する。従って、授業で配付された資料は全て毎回持参すること。また、参考書は適宜紹介する。							

授業科目名	和文：生活の科学 III－住まいの環境学－ 英文：Family and Consumer Science III:Building Environmental Science				時間割	木 5-6	
科目コード	506-0320	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	2期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義・演習・実験	備考	主に「講義」と内容理解を促すための「演習」で進めます。一部、体験的理解のための「参加型・模型実験」をします。また、知識と実際の生活とを結びつけるための生活調査（測定）をします。なお、担当教員の専門は「建築環境学」です。				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
西川 竜二	教育文化学部 生活者科学講座	教文 1-302・2691					
オフィスアワー 曜日及び時間：授業後 場所：研究室							
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 人間に健康・快適な住環境を、環境共生的な方法でつくるための見方・考え方や方法を学ぶこと（主に暖かさ・涼しさ・明るさの環境を対象とする）。授業を通じて、健康や環境共生の観点で、自分や家族の日常生活環境に目を向け、評価し、改善する意識や実践力を高めること。また、これからの住生活を環境共生型に転換していくための技術やライフスタイル、それに関わるサービスや教育・制度などについて意欲的・建設的に考えられるようになること。 2. 到達目標 1) “環境にやさしい”という感覚的なキャッチコピー的な表現でなく、住生活（住まいづくり、住まい方）と環境・健康との関わりについて、科学的・具体的に説明できるようになる。例えば、 ○現在の住生活と都市環境問題、地球環境問題との関係について ○地域の伝統民家や現代のパッシブ建築・環境共生建築と呼ばれる建物に備わる、太陽の光・熱など自然のポテンシャルを利用・制御して建築環境を調整する方法について ○建物を断熱することの価値（燃料費節約以外の安全・健康・快適について） ○今日までの住宅の断熱や冷暖房技術等の発展が健康にもたらした恩恵。一方、現在の電灯や冷暖房による一定な明るさ・温度の人工的環境での生活が人間の健康に与える悪影響。私たちが目指すべき住環境の目標とはどのようなものか。 2) 上記1)を踏まえ、自分の身近な生活空間に対して、住環境を評価し、住まい方の注意や改善策を提案し、実践行動できるようになる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 秋田大学では基本的目標の1つに「環境」と「共生」を課題とした独自の研究活動を行うことを掲げています。本授業では、誰にとっても身近な住生活における「環境」と「共生」に関する問題について、科学的な見方・考え方を学びます。これにより、環境共生に貢献する研究や活動を行うための素地を養います。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 授業は、主にプリント・スライドによる講義、それに関する演習で進めます。ただし、講義による知識習得のみならず、参加型の住居模型実験と実際の居住環境の測定調査を取り入れて体験的に学びます。実験や調査に積極的に取り組める学生諸君の受講を推奨します。内容は以下を予定。 【01 ガイダンス】 授業の概要と進め方、成績評価等の説明／住環境学とは／授業全体のダイジェストと問題提起を行う。 【02 現代人のライフスタイルと健康・快適】 【03 住まいの〈くしみ〉と〈かたち〉】 植物の地域性・多様性（植生気候図）と伝統建築の地域性・多様性（民家気候図）／伝統建築文化と現代建築文明（パッシブ型技術とアクティブ型技術）／照明暖冷房技術の発展と建築形態の変遷 【04～05 冬暖かく夏涼しい住環境づくりの手法（参加型模型実験／VTR 視聴）】 少人数のグループに分けて実施。良好な住環境を形成するための建築的工夫（素材や形態の知恵・技術）の効果を住居模型を用いて実験をします。受講生自ら手と頭を動かして体験的に納得してもらいます。／実験の順番待ちの学生は、室町時代（土壁・土間床）、江戸時代（障子・畳座敷）の伝統民家の夏涼しい家づくりの技術の実測調査に関する VTR を視聴 【06 地域の気候を読み解く】 建築環境デザインにおける気象情報利用／地域の気象観測データを住まいづくり・住まい方に活かすには 【07 日射の調整術】 窓と日除けによる太陽エネルギーの取得と遮への制御／自分の部屋を例に日除けの効果的な使用法を試算する 【08 日射調整と冷房利用】 家庭用エアコン（ヒートポンプ）のしくみ／冷房利用と都市気候（ヒートアイランド）／日除け VS 最新型高性能エアコン冷房の省エネ効果・環境負荷を比較。住環境デザインはローテク・ハイクの統合であり、最適デザインのための優先順位を考えます 【09～11 冬季の住宅熱環境の現状と高齢社会の課題】 人の快適性評価モデル／統計資料である住環境と健康のかかわり／高齢者の温熱生理・心理特性／東北地方の住宅における冬季の熱環境の実態と課題 *冬季休業中の課題「自宅の冬季における熱環境調査」（配付の液晶温度計を用いた温度測定により、冬季の住宅熱環境の健康・快適性および暖房効率を診断） 【12 住まいの断熱（冬季休業中の調査課題への解説を含む）】 断熱にどんな価値を見出すか／断熱材、建物の構造・断熱工法と熱環境特性（外断熱と内断熱）／断熱を活かした夏の住まい（四季に対応した住環境形成）／住宅の省エネルギー基準（省エネ法） 【13～14 住環境と地球環境】 身近な住環境と都市・地域・地球環境の一繋がりイメージを形成するために、地球表面の温度が平均的に約 15℃という我々の生存に適した環境であるための諸条件を思考実験（地球環境のエネルギー収支の簡易モデルによる電卓計算）により検証。結果より、建築・都市の開発や活動と水・土・緑の保全とを関連付けて考察する。／環境共生型の建築・設備機器・住まい方と普及促進のための制度や教育 【15 総括】							
授業に関連するキーワード	建築環境学	住生活と都市環境・地球環境	住まいと健康				
住まいの快適性評価	環境共生建築（住まいづくり）	ライフスタイル（住まい方）					
<b>成績評価の方法及び合格判定基準</b> 1) 授業中の課題（一部宿題もあり）(60%)、2) 冬季休業中の課題レポート「自宅の冬季における熱環境調査」(40%)、の合計により評価します。 * 80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C、60 点未満を D とします。 * (1) 出席が 2/3 未満、(2) 実験への不参加、(3) 冬季休業中の課題レポートの未提出、のいずれかに該当する者は授業放棄とします。 * 成績不振・出席数不足に対する追加レポート提出等の救済措置は行いません。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。プリント、PC プロジェクターを使用します。毎回の講義にプリント（スライドの抜粋等）を配付します。復習や発展学習で読んでほしい参考図書（図書館所蔵）の一覧を授業 1～2 回目に配付します。							